

「第2期江別市子どもの読書活動推進計画(案)」に対する市民意見募集結果と市の考え方

1 意見募集の結果

- (1) 募集期間:平成25年10月15日(火)~11月15日(金)
 (2) 計画(案)配置場所 情報図書館(本館と江別・大麻・豊幌の各分館)、市役所1階情報公開コーナー、市役所大麻出張所、水道庁舎内証明交付窓口、市民会館、各公民館(中央・野幌・大麻)、豊幌地区センター、野幌鉄南地区センター

計13か所

- (3) 提出いただいた意見
 提出者数: 2人
 意見数: 8件

2 第2期江別市子どもの読書活動推進計画(案)に対する意見概要と市の考え方

(1) 考え方の区分

取扱区分	意見の反映状況
A	意見を受け入れて案を修正するもの
B	案は修正しないが、今後の進め方等について積極的に参考とするもの
C	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
D	これまでも取り組んできているもの
E	案に取り入れなかったもの

(2) ご意見の概要と市の考え方

No.	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	取扱区分												
	大麻地区 男性(60歳代)														
1	<p>第2章の4 基本目標に対する取り組み 2 子どもの読書環境の整備・充実 (2)学校図書館の整備・充実 「課題」P13について</p> <p>この項に、重要な課題である蔵書率の向上についての内容を明記してほしいです。第1期の6年間で蔵書率は、67.8%から72.2%に増加しました。図書資料として不適切なものを廃棄しながらの増加は、意義があります。この到達点を全国的な視野から見ると下記の表のとおり、まだ十分とは言えません。</p> <p>学校図書館図書標準の達成度 江別市は網掛け部分</p> <p>平成23年6月 文科省調べ 単位 % 「学校図書館」平成23年8月号による</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校種別</th> <th>50~75未満</th> <th>75~100未満</th> <th>100%達成</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>15.2</td> <td>31.4</td> <td>50.6</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>19.6</td> <td>32.5</td> <td>42.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>1期の計画にも「学校図書館図書標準」の標準冊数を達成するよう努めるとうたわれています。「学校図書館の整備・充実」の内容として、図書資料の充実という課題ははずすことできません。是非、蔵書率の向上についての内容を課題のひとつとして明記してください。</p>	学校種別	50~75未満	75~100未満	100%達成	小学校	15.2	31.4	50.6	中学校	19.6	32.5	42.7	<p>学校図書館の蔵書率は、計画当初の67.8%から74.9%に増加していますが、「学校図書館図書標準」に定める標準冊数を達成するまでには至っていないことから、第1期の課題として記載します。</p>	A
学校種別	50~75未満	75~100未満	100%達成												
小学校	15.2	31.4	50.6												
中学校	19.6	32.5	42.7												
2	<p>第4章 基本目標2 推進方策2-2情報図書館の学校等への支援 「推進の方向性」P22について</p> <p>学校派遣司書の派遣方法について、「年に1回は学校図書館へ支援できるような人員体制の検討をすすめていきます。」と記述されています。</p> <p>ここを「早期に、年に1回は学校図書館へ支援できるような人員体制を作っていきます。」と記述してほしいです。</p> <p>平成18年度から始まった派遣司書の取り組みは、学校図書館の環境整備、学習支援等に大きな成果をあげてきました。学校図書館に司書さんがなくてはならない存在だということを、誰もが実感しています。子どもたちは、派遣司書さんが大好きです。今江別市の学校にいる子どもたちが、ますます読書好き、学校図書館好きになるように、早期に、年1回の学校図書館への派遣が可能な体制を作してほしいです。</p>	<p>学校司書が学校図書館の環境整備等に大きな成果を上げてきた点は十分理解していますが、当市の財政事情により早期の実現は困難であることから、年に1回は学校図書館へ支援できるような人員体制の整備を段階的に進めてまいります。</p>	B												

No.	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	取扱区分
3	<p>第5章 2 成果指標 基本目標2 子どもの読書活動を推進するための環境の整備 「自主的・主体的な学びを支援し、豊かな心と感性を育む図書や資料の充実による蔵書率の向上」P26について 「蔵書率の向上」が上向きの「→」になっています。ここは数値が必要です。是非数値目標を%で明記してください。 その理由です。</p> <p>①この目標は、他の取り組みとちがって国全体の取り組みである。 (「江別市子ども読書活動推進計画」による、江別市独自の他の取り組みとは質的に違う)</p> <p>②達成すべき目標値が、「学校図書館図書標準」の標準冊数として、明確になっている。</p> <p>③②の目標を100%達成のために、国が繰り返し予算措置を行い、取り組んでいる。 (平成13年度以来4回にわたって、「学校図書館整備5カ年計画」が実施されている。学校図書館の「読書センター」、「学習情報センター」としての役割を重要視していることのあらわれである。)</p> <p>④第3次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(2013. 5閣議決定)」では、「学校図書館の機能強化」の項で、平成24年度～28年度の学校図書館図書整備5カ年計画にふれ、下記のように記述されている。</p> <p>「地方公共団体においては、学校図書館資料の計画的な整備が図られるよう引き続き努め、本計画期間中にすべての学校図書館において、学校図書館図書標準達成をめざす。」</p> <p>⑤数値目標が明確な方が、堅実な取り組みができる。 ⑥「学校図書館図書整備5カ年計画」の予算が、地方交付税措置なので、数値目標が明確な方が、図書整備予算としての算定根拠が明確になり、図書予算化されやすい。 ⑦文科省でも繰り返し調査を行い、数値として把握できる。</p> <p>以上です。よろしくお願いいたします。</p>	<p>蔵書率については、教育委員会事務局としても一定の目標を持って向上に努めています。 国は図書整備予算を地方交付税で措置していますが、あくまでも交付税の算定根拠に算入しているという意味であり、使い道が特定される補助金とは異なり、使い道の指定がない財源となります。そのため、市における毎年度の予算措置が明確に保証されるものではないことから、蔵書率の目標数値を明記することは困難と考えています。</p>	E
江別地区 男性(30歳代)			
1	<p>一、家庭における読書活動の推進について 子どもの読書の推進の為に大事な事は、何より大人が見本となって読書している姿を見せているのか。親が忙しすぎて、家で読書をしている姿を見せる余裕がないことが問題。家庭はもちろんほかの場面においても、読書を心から楽しんでいる大人の姿、読書の楽しさ、読書することによって人生が豊になった、行動がこう変わったと言える、この本たためになるよと言ってあげられるのかどうか大事だと思う。親を含めた大人の読書推進も併せて行っていかないと根本が変わらないと思う。</p>	<p>子どもの読書活動を推進するためには、最も身近な存在である保護者が子どもとともに読書の楽しさを分かち合い、読書に親しむことが有効であると考えています。 こうした観点も含め、情報図書館では、幅広い年齢層の市民を対象に読書の普及活動を実施しています。</p>	E
2	<p>一、子どもの読書活動を推進するための環境の整備について 本に触れ合える場を増やす。情報図書館をはじめ各図書館、学校の図書館は重要だが、気軽に本を手にとれる場を市全体に増やせればと思います。 たとえば駅に図書館や本屋が併設されれば、高校生等、通学するときに本を借りたり返したり出来る。大人もちろん。その他、情報図書館のシステムを拡充して、コンビニとかで借りたり、返したり、できればと思う。 また、情報図書館のHP機能を拡大して、予約のほか、今度借りたいなど、気になった本をメモや登録できる機能が欲しい。昔に比べて書店の数も減っているので、もっと専門書も手に入る大型店舗の誘致や小店舗の拡充、各書店と図書館の連携など、身近に本を手にとれるようにして欲しい。</p>	<p>子どもにとって望ましい読書環境づくりを推進するためには、学校や情報図書館、児童センター等における読書活動の実態を踏まえて検討することが重要と考えています。 情報図書館のシステムの拡充やHP機能の拡大等につきましては、貴重な要望・意見として参考にさせていただきます。</p>	E
3	<p>一、本に触れ合える場を増やす 僕が子どもの頃、近所(上江別西町)に早苗文庫という個人でしている小さな図書館？があった。そこは土日近所に子どもたちが集まって、本を読んだり借りたりはもちろん、室内にテーブルが置いてあって、友達と遊んだり、庭で遊んだりできた。騒いでも怒られなかったし、そのお宅の方が忙しいときは上級生がみんなの面倒を見てくれていたし、その家主の大人から本のことを教えてもらったりできた。 今の図書館は当たり前だけど、静かにしなきゃいけない。子ども図書館として、子どもが歩いていける範囲に、ほどほどに騒いでもいい、遊びに行ける場、家では出来ない話が出来る場を構築してほしい。 また、常設が難しいのなら、各自治会館などで出張移動図書館として、読み聞かせや何か物を作ったり、いろいろ相談したり出来るようなもの良いかもしれない。</p>	<p>市内には、私設図書館(家庭文庫)として活動を行っている個人の方がおられますが、以前に比べてその数は減少しています。 市では、12月にイオンタウン江別2階に「江別市子育てひろば(愛称:ぼこ あ ぼこ)」を開設し、親子で一緒に楽しめる児童向けの図書コーナーを設けました。</p>	E

No.	ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方	取扱区分
4	<p>一、学校等における子どもの読書活動の推進</p> <p>最近の小学校は読書感想文などが少ない気がする。自分は本を読んでどう感じたのか、友達は同じ本をそのように感じていたのか。というような、感想を伝え合う場をもって欲しい。市としても読書感想文コンクールを開催するなど、小学生だけではなく、一般社会人の部なども作ってはどうか。</p>	<p>学校では読書月間に合わせた読書感想文のほか、運動会や学芸会などの行事感想文を書く取り組みを行っています。</p> <p>市主催の読書感想文コンクールについては、貴重な意見として参考にさせていただきます。</p>	D
5	<p>全体的に、大きな方向性は必要とは思いますが、だからこそ小単位で読書を身近に出来る取組みを増やせればと思う。読書カフェなど本好きの方が集まったり、流行の読書会が出来るようにしたりなど。</p> <p>取り留めのない意見で申し訳ありません。</p>	<p>市として読書カフェや読書会などを実施することは考えておらず、市民がこれらの活動に自主的に取り組み、幅広く読書活動を展開していくことが理想と考えています。</p>	E